

令和6年度 第1回羽黒地域振興懇談会 会議録

1 日 時 令和6年9月18日(水)午後6時00分～午後8時00分

2 場 所 広瀬地区地域活動センター 講堂

3 出席者 委員 百瀬清昭委員、丸山三喜男委員、堀誠委員、加藤省二委員、榎本光男委員、
小南孝子委員、三浦美津子委員、齋藤一志委員、
羽黒庁舎支所長 佐藤正直、総務企画課長 成沢結花、市民福祉課長 山口えみ、
産業建設課長 板垣誠、総務企画課長補佐 成澤紀美
総務企画課専門員 矢口舞衣子、総務企画課主任 山本務
本所 副市長 阿部真一
企画部長 上野修、観光物産課長 安達文和、
地域振興課長 菅原青、地域振興課主査 渡部久美子

4 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ 百瀬会長、阿部副市長
3. 新委員紹介
4. 報告
 - (1) 令和6年7月25日の大雨災害について
 - (2) 令和5年度羽黒地域振興懇談会での質問事項への対応について
5. 意見交換
 - (1) 令和6年度羽黒地域主要事業及びまちづくり未来事業について
 - (2) その他
6. 市民提案型協働事業審査会
7. その他
8. 閉会

5 会議資料

- ・【資料1】令和6年7月25日の大雨災害について
- ・【資料2】令和5年度羽黒地域振興懇談会での質問事項への対応について
- ・【資料3-1】令和6年度羽黒地域主要事業概要
- ・【資料3-2】羽黒地域まちづくり未来事業 取り組み状況
- ・【資料4-1】「市民提案型協働事業企画提案書」の審査会の流れについて
- ・【資料4-2】令和6年度 市民提案型協働事業企画提案一覧

4 報告

(1) 令和6年7月25日の大雨災害について (産業建設課長説明)

委員より意見・質問

【委員】

田んぼの畔の復旧に関わる補助はあるか。

【産業建設課長】

資料2 ページ2の農地の所に記載があるが、個人の畔崩落には、備考欄に市の補助2分の1と記載してあるので、市の方に相談願いたい。

【委員】

被害総額に軽微であるため農地水の事業で復旧する分は含まれているか。そういったものは把握しているか。

【産業建設課長】

農地等の復旧については、市の単独事業で行ったり、公共債で行ったりするわけだが、こちらの事業分については被害状況に記載してある。

ただ、被害者との相談により、多面的機能支払い交付金とか、中山間地域等直接支払い交付金とかで行う場合は、そちらの方の分については記載していない。

【委員】

全体的な被害については、ここに記載の物よりもあるという認識で良いか。

【産業建設課長】

被害者からの相談が無いと庁舎でも把握しきれない部分があるので、軽微で庁舎に相談していない被害については把握していない状況である。

相談いただいた被害についても、軽微なため自分で行うとの事で総被害額から漏れているものもある。

【委員】

住宅の床上浸水が2件との事だが、その浸水程度と直接の原因を特定しているのか。また、今後の対応策は検討しているか。

【市民福祉課長】

床上浸水の程度は10cm未満でそれほどの浸水ではなかった。畳や床板を取り除き、泥をかき出し、元に戻す形で直したようだ。

他に川の近くで越水して浸水する、農業用水路が越水して浸水するという家があり、個人で出来る対策はしているが、それでも浸水し、自己対応していただいている状況である。

【産業建設課長】

手向地区については、現在、冠水対策工事を進めている途中で、今回浸水したところは、まだ冠水対策が終わっていないところであったので、今後冠水対策工事を進めていく。

十文字については、土地改良区の水路や、県道の側溝から溢れている状況のようなので、土地改良区や県と調整しながら要望していきたい。

【委員】

目に見えない規模が小さいものや、ひび割れしている様なところは、今後の雨で被害が増えるかもしれない。そういった場合は、市の交付金を使用して修繕する形になるのか。

鶴岡市全体ではどれくらいの数が被害を受けているのか。

現在の被害額と、実際に施工した場合の被害額に乖離があった場合も対応できるのか。

【副市長】

鶴岡全体では、一番多かったのは藤島の三和集落。

全体での床上浸水は 14 棟あった。

その他は床下だが、三和だと京田川、羽黒においては黒瀬川、他に大山川とか、そういったところが氾濫したものだから、それに合わせて住宅被害があった形になっている。

特に藤島の三和については、京田川の工事を県が進めていたが、それが今年度で概ね完成するという中で床上浸水だったので、この対応について、県の方にこういう事案があったと要望を重ねていき、時間はかかると思うが、土砂の浚渫だけでなく、河川工事そのものの見直しということで要望を進めているところだ。

【委員】

中島と黒瀬については被害が無くて助かったが、ハザードマップに載っていないところの被害が出ているようなので、ハザードマップの見直しをしてもらいたい。

(2)令和 5 年度羽黒地域振興懇談会での質問事項の対応について

(副市長、観光物産課長、市民福祉課長、産業建設課長説明)

委員より意見・質問

【委員】

ゆぽかの夜間営業は土日祝日だけでもありがたい。

仕事の内容を仕分けして、出来る仕事なら近くの 60 代、70 代くらいならいけるのではないかな。

さくらがおかについては、施設の関係で貸したいけれどもという状況があるようだ。

【委員】

さくらがおかのバスが大変だというのが分かった。引き受けない方がいいと思う。その分、市のバスを回してほしい。老人の足として市のバスを使わせてほしい。

時給をいくら上げてでも今は人は来ないと思う。声を掛けながら進めたいと思う。

ゆぼかの夜間の営業は有り難いと思う。

【副市長】

小南委員から言われ、雇用の仕方に創意工夫が必要だと改めて思った。

ゆぼかは入館者数が増えていて、朝早くいっても結構にぎわっている。ただ、大広間や客室が多いので、そこをうまく利用し、経営の安定をしたいと思うし、時給も 900 円から 1,200 円に上げて、立地も良いし、過ごして良い環境だと思うので、是非、今頂いたアイデアを活かすような形で更に振興を図っていききたいので、今後ともご協力よろしくお願いします。

5 意見交換

- (1) 令和 6 年度羽黒地域主要事業及びまちづくり未来事業について
(総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長説明)

委員より意見・質問

【委員】

13 番の羽黒地域おしごとみ〜つけた事業だが、夏休みのど真ん中で、プールも無くなって、子供たちも暇をしているため、声を掛ければ集まる。良い事業なのにマイクロバスに 4〜5 人しか乗っていないのは勿体ない。協力するので来年からは早めに我々に声をかけてもらいたい。

【総務企画課長】

ありがとうございます。

今年度は声掛けが遅くなってしまったため、来年はもっと早く行いたいと思うので宜しくお願いしたい。

【委員】

史跡松ヶ岡青空マルシェ支援事業だが、新規事業ということで、市の方からも協力してもらって行ったが、去年は単独で行い途中で桃が無くなってしまったため、今年は沢山準備しようと思ったが、桃の生産が異常気象で上手くいかず、たくさん集まってもらったが、ガッカリさせてしまった面もあった。ただ、キッチンカーの出店等もあり、子供たちも喜び、盛り上がってきた感はある。

今度行われるクラフトフェスについては、宣伝を行ってもらっているため、多方面から参加がある。ただ、駐車場が狭いため、市からの協力でシャトルバス運行をしている状況だ。

様々なイベントを行うことで知名度も上がってきていると感じている。

【会長】

夏の高温の傾向で、果樹全般の収穫時期が前倒しになった傾向がある。ピークが間に合わなかったのか。

【委員】

家でやっているが、月山高原エリアは耕作放棄寸前だ。小麦が無いと荒れ野原になる。小麦をしっかり粉にして販売できれば、さらなる拡大が出来る。西川町で製粉し、東京のパン屋に売っている現状だが、大量なので、廉価に粉を生産し販売できれば、月山高原エリア全部やっても問題なく出来る。

現在、委託製粉しているが、小麦は製粉しないと食べられず、大型化設備が必要で苦勞している。販売支援は有り難いので継続で願いたい。

【会長】

そうめんは大分作ったのか。

【委員】

全粒粉なので、テストして、そうめんだけは旨いと思った。

商品化したが、もっと早くやれば良かったが、デビューが7月で、販売しようとしたのは1週間でなくなった。来年は10倍、30倍、50倍のレベルで増える予定。ネット通販のオイシックスでも販売が決定した。そうめんは賞味期限が2年であり、2シーズン大丈夫のためコストが下げられる。そうめんは来年以降大量生産を予定している。

【会長】

何かネーミングしているようだが。

【委員】

月山の粉雪。

【委員】

食改でカモンマーレに行ったとき、月山高原の小麦で作ったパスタを食べてきたが、そうめんは食べたことが無かったので、ぜひ買ってみたいと思う。

耕作放棄地があるのであれば、麦で良いので作って欲しい。農家としては、年で出来なくなった際、米でも小麦でも、耕作地を継承してもらうのが一番良い。

製粉は西川ではなく、こちらで雇用を創出してやって欲しい。

羽黒町は特産品が無いので、そうめんを特産品として販売すれば良いと思う。

【会長】

今、40ヘクタールだったか。

【委員】

そうである。

販売先に合わせるしか仕方がないが、ウチと山大があるので。

【委員】

そうめんはまだ食べたことが無いので分からないが、とにかく若い人が活躍出来れば良い。

【委員】

黄金色に染まった景色が大変すばらしいと思い、何とかあれを観光につなげられないのかと思う。月山高

原のひまわりもそうだし、四季折々、ホームページ等でランダムに見られる状況にしたらどうか。
鶴岡市のホームページを見ても、どのイベントを何処でやっているか分かりづらい。もっと見やすいシステムに。
黄金色の小麦畑に人を集めるイベントを出来ないか。

【委員】

月山の粉雪を買えるところはないのか。

【委員】

狩谷のあねちゃで販売している。

【委員】

ゆぽかでも販売できないか。

【副市長】

ゆぽかでしか買えない商品ということになれば、こちらからお願いしたい。

【委員】

狩谷のあねちゃよりお客さんがいっぱい来る。ロコミで広まると思う。
カモンマーレで食べたが美味しかった。美味しいものを地域にも広げて欲しい。

【会長】

加茂だけではなく、ゆぽかでも食べられるようにしてほしい。

【副市長】

良いアイデアを頂いた。
ゆぽかもそうだが、食と観光、見どころをホームページに掲載していかなければならない。
以前言われたのは、鶴岡市にスキー場が3つあるが、各々バラバラで特徴が何なのか。もっと3つ一体にして、見る人の立場に立ってホームページを構成して下さいと指摘があったし、正にそうだと思う。
地域の特産品、手掛けたものをゆぽかに置くというのもあるし、広く知ってもらうにはどうしたらいいのか。これをやはり考えていく必要があると思う。
新しく作ったそうめんだが、ふるさと納税での取り扱いはあるが、これはどれぐらい売れたものか。

【委員】

生産と粉にするところまでが私の仕事で、細谷の岡部さんに販売を全部頼んでいる。
どこにどれだけ売ったかは分からない。

【副市長】

わかった。

ふるさと納税の良いところは、お客さんからこの商品を送って下さいと頼まれた時に、託送代というのを鶴岡市から出す。生産者、開発者の方は負担はないし、送り状も鶴岡市の方で作るので、そういった意味では、特に農家の方が自分が普段から作っているものを商品にならないかと、アイデアを是非、ふるさと納税の商品にして頂いて、是非、自分の身の回りにあるもので、商品開発という1つのきっかけにさせていただければと思うので質問させていただいた。

【委員】

皆から言われるが、カメラを持った方々が来るが、通信環境がドコモは何とかなるが、他のキャリアの電波が入らない。通信事業者にあの範囲をカバーできるように提供してもらえないか。

【副市長】

情報企画課の通信に強い人に確認する。

6 市民提案型協働事業審査会

(1)「潜在的な地域の人材の掘り起こしとその技を次世代へ継承」 (山本興治氏説明)

委員より意見・質問

【会長】

地域の交流を深めて移住・定住に繋げていこうという大きな目標があるようだが、地元につながる手仕事、料理、こういうものを集めてコンテストをするということで、面白いと思って拝聴した。

例えば、老人クラブ連合会等で小さなコンテスト等はあったか。

【提案者A】

高齢者の作品展は毎年やっている。手芸や習字や絵を。

提案した内容についてはやっていない。

【支所長】

先程の会議でも羽黒は特産品が無いということで、こういった提案は良いと思った。

今、提案者Aさんが描いている、こんなものをというのを2、3教えていただければ。

【提案者A】

この間文化庁の100年フードになった笹巻。各活動センターで年配の方を先生にして作る。次世代に繋げていくということをすれば、まちづくり、コミュニケーションに繋がる。それが特産になると思っている。

それから羽黒町が庄内柿の発祥地だった。ところが最近では高齢化し、手間暇がかかるということで伐っている。羽黒町のシンボルである柿を守っていけないか。

以前川代の方に柿の葉茶を作っている方が居たが、松ヶ岡のお茶と合わせて柿の葉茶を土産物として作ってどうかと思っている。

【委員】

全体的に伝統芸能を羽黒は子供たちに教えているが、中々子供たちが集まらないと思っていると思うが、声を上げて実行しようとする方が居ない。全面的に応援するので、子供は好奇心が旺盛ですぐに覚える。山本さんのような方が学校へ来て教えてくれれば一番良いが、我々も協力するので宜しくお願いする。

【提案者A】

笹巻の例を挙げた際、活動センターといったが、小学校や中学校の調理場で子供たちと一緒に食べさせる。給食の一品にするということをすれば、子供たちの食育にもつながると思う。

(2)広瀬の魅力を伝えるプロジェクト「地域魅力発見マップ作製」 (工藤実佐子氏説明)

委員より意見・質問

【委員】

今、広瀬に住んでいるから広瀬のということで、将来的には羽黒全体ということになるのか。

【提案者B】

この資料にもあるように、羽黒の玄関ということで良い所を見せて、そこから羽黒の良さにも広げていきたいと思っている。

【会長】

非常にアイデアに富む企画だと思った。

若い人の感性が活かされる仕事になればいいなと期待感を持っている。

我々の年代だと紙ベースの情報だが、若い人というのはインスタグラムとかSNSとか、そういうデジタル情報をしっかり作りながら、かなり広域的な発信ができる。その辺の視点が非常に面白いと感じる。

広瀬地区も伝統文化や食文化、いっぱいあると思うが、具体的に紹介したいもので今思いつくものは何か。

【提案者B】

私が広瀬地区に住んでいて良いなと思ったのは夕方の景色。ビル等が無いところなので景色が綺麗だったり、羽黒からでも酒田の花火が見えたりとか。

田舎だなと思って良いなと思ったのは、豚小屋の臭いだったりとかが良いなと思った。

嗅いだことが無い人が居ると思うが、そういうのを独自に発信出来たら面白いかなと思う。

【会長】

伝統芸能的なものはどうか。

【提案者B】

小学校の頃に先生が連れて行ってくれて、高寺八講を見に行くと、実際、社会人になってからは休みを取らないと見に行けないということもあるが、こんな小さな地域の中で、歴史をそのまま伝えてくれるのがあり心に残っている。

【委員】

2年くらい前に広瀬地区のビジョンも出来ていると思うが、6人でこういう企画を作るのは難しいと思う。
若い人を募集し合って進めて下さい。

【支所長】

工藤さんのような方々が地域課題や地域のことに興味を持ってもらうのは非常に良いかなと思う。
今回の提案についても、地元の魅力を発信するということで非常に良いと思うが、ホームページだと興味のある人しか見に行かないということがあるが、発信するうえでは、今だとプッシュ型だったりあると思うが、その辺の考えはあるか。

【提案者B】

このデジタルマップ、私も紙が欲しいと思ったりする。お祭りとかで集まったときにチャンスだと思い、そういう祭りにメンバーが参加して、実際に足を運んで広げていけたらと思っている。
高齢者の方にも、このデジタルマップが出来た時に、使い方の説明会か、足を運んで説明をしていきたいと思っている。

7 その他

委員より意見・質問

【副市長】

今日、羽黒地域の地域振興懇談会に参加させていただきまして、本当に私自身、大変な収穫を頂いたな
と思っております。

それは、地域どこに行っても課題がございます。

それに対して、直球で向き合う姿も分かりましたし、それから、先程の地域の特色を活かした取り組みということで、小麦の生産、そうめんですね。そういったことで、これからも拡大もできるし、それを基にして商品を開発して販売もしていく。すごくこれからの取り組みが楽しみだなと思って聞いておりました。

私自身も農業のセクションに居たこともありますけれども、この鶴岡の中で小麦を作るというのは、意外と難しいということで聞いておりました。赤錆病とかですね。そういった環境でありながらも 40 ヘクタール作っているというのは、凄いことだなと思いましたので、本当に楽しみにしております。

それから、羽黒のおしごとみ〜つけた事業なんですけれども、私2年間ほど東京事務所というところに出向しておりました。その時に、こういった発想というのは学校の先生が生徒に行かせる、教育的な効果を狙った取り組みだったと思いますけれども、東京事務所で大田区に行ったときに、あそこは小さな工場がずっと続いている、そういった地域でありますけれども、やはり中々技術を持った方が入ってくれないということで、工場の方々が一斉にドアを開いて、何時でも生徒さん見に来て下さいということで、オープンファクトリーということでやった事業がありました。それで増えたかどうかは分かりませんが、課題があれば自分の方から自分の仕事を見てもらう、そんな企画だったような感じがいたします。やはり、地域の子供さん方、地域でどういった企業活動しているのか分からないわけですので、そういった意味では、子供さんが地域を理解することは非常に、これもアイデアに富んだ内容かなと思います。是非今後とも続けていきたいなと思います。

私これからこういった地域振興懇談会では温海の方に行きますけれども、温海の説明を職員の方から聞きました。その中では令和9年の4月に新しい道の駅あつみが出来上がります。そこに向けて温海の方々も、商品開発だったり、こういった形で温海を売り出そうかというようなことで、様々アイデアを今出し合っている段階であります。

鶴岡、非常に広い地域なわけですがけれども、各々の地域で課題を見つけて的確に対応している、素晴らしい地域だなと思っております。

当地域、羽黒地域でのお話も聞けて、本当に私自身収穫のあった懇談会になりました。

末永くお付き合いいただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【委員】

この間羽黒の大家族会議をやったが、その時地域を盛り上げるイベントということで色んなものが出た。ぜひ前向きに検討していただき羽黒の地域を盛り上げるイベントをやっていただきたい。

【会長】

今回5年ぶりに秋の峰に入り、120人くらいが一緒に寝泊まりした。色々な方と意見交換する機会があり、羽黒は素晴らしいという方がほとんどだ。非常に米が旨いと、この品種は何だと聞かれた。こういう人たちは色んな所に行っているが、また来る。鶴岡、羽黒を宣伝する良いチャンスだ。

シーズに関して、今、羽黒から4名研修に入っているが、来年度6期生の募集中だ。農業と観光を標榜する地域なので、この地域に定着する人材育成を進めていかなければ。意欲のある若い方を紹介して欲しい。

以上。